



年頭ご挨拶

富士通株式会社 代表取締役社長

黒川博昭

新年を迎え、一言ご挨拶を申し上げます。読者の皆様方には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。皆様にとりまして、新しい年が希望に満ちた実り多い年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

我々を取り巻くテクノロジーの進歩は、ますます加速しています。半導体に組み込まれたトランジスタ1個当たりの値段は、この20年間で10万分の1になりました。同じ20年間で出荷量は1,000万倍となり、世界中で年間一人当たり10億個のトランジスタを使っていることとなります。

例えば、日本の自動車の高級車には、すでに70とか80のマイクロプロセッサが入っています。自動車も、どんどん半導体の固まりになりつつあります。当然、コンピュータが入れば、それに付随して、ソフトウェアが入ってきます。その開発量は、この10年間で15倍程度になっています。これは、カメラやテレビなどの家電も、飛行機も産業機器もロボットも同様です。あらゆるものがIT化しています。

米国商務省はデジタルエコノミー2004のなかで、米国の遺伝子銀行Genbankでの遺伝子配列の登録数と、マイクロプロセッサの集積度の伸びを比較しています。この両者のグラフが伸びていく傾きは、見事に一致します。これは、遺伝子研究が、コンピュータの性能向上に伴って進歩していることを端的に表しています。このようにITの進歩の速度が、他の研究やビジネスの変化を支えています。

このような環境の中で、これからのITの技術開発や、利用を牽引していくものは何でしょうか。

一つは、自動車を中心としたITの利活用です。自動車は、生活のなかで、多くの時間と空間を占めています。この自動車とITの融合というのは、非常に大きく新しい分野を開いていきます。とくに、自動車という移動するものをターゲットにするという意味で無線通信の世界を引っ張っていくでしょう。

もう一つは、医療です。医療は、人間生活でもっとも重要なテーマのひとつです。医療高度化は、全ての人の切実なニーズです。そして、これから高齢化社会にとって、医療費の抑制は国家的な課題でもあります。バイオ研究や、画像認識、医療機関のネットワーク化といった面で、新しいITを引っ張る大きな役割を果たすでしょう。

もう一つは、シミュレーションです。グリッドやPCクラスタによる計算コストの低下により、利用分野は大きく広がります。先程述べたバイオの分野や、ナノテク分野はもちろん、製造業でのフルデジタルプロセス化や、金融の商品開発、気象予報や防災などの安全・安心な社会を実現するといった分野でも大きな役割を担うでしょう。

もう一つは、ロボットです。現在は産業用ロボットが主体ですが、最近では、家庭用や、病院、福祉などの現場における第二世代のパーソナルロボットが注目されています。ロボットは、目や耳をもつ、知能をもつ、学習能力をもつ、動きを制御するといった複合技術の固まりです。この分野も、恐らく新しいITを引っ張っていくでしょう。

昨年12月に政府のIT戦略本部から発表された「IT新改革戦略案」にも、「医療」「交通」が重点テーマとしてあげられています。

富士通グループは、このようなITの進化に対応できるように、テクノロジーとサービスを両輪としたビジネスを展開していきます。昨年、事業セグメントを変更して、プロダクトとサービスを一体化したテクノロジーソリューションというカテゴリーを創り、プロダクトとサービスを一体化して事業の主力にすることを明確にしました。技術融合やサービス化の進むなかで、より迅速な事業展開を実現してまいります。

そして、製品およびサービスのロードマップと研究のロードマップを確実にリンクさせ、研究開発とビジネスの一体化を更に進めてまいります。また、先端技術を迅速に事業化できる仕組みも必要です。従来 of 事業のカテゴリーに入らない新技術を迅速に事業化するために、昨年富士通研究所にビジネスインキュベーション研究所を新設して、そういった取組みを加速していきます。

「IT新改革戦略案」は、「ITのもつ構造改革力」という表現を使っています。これからITの役割はますます大きく、多様化して、社会や企業を変えていきます。

富士通は、お客様のパートナーとして、ITを通してお客様にお役に立ち、豊かで活力のあるネットワーク社会づくりに貢献できるグローバルな企業としてお客様や社会から信頼されるよう一層の自己革新を図ってまいります。

最後に、今年も倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。